



河相安彦

日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座

演題名：検査に基づく補綴歯科治療介入の意思決定

抄録

咀嚼機能の回復を主要なアウトカムとする補綴歯科治療には、超高齢社会を迎え健康長寿の延伸に寄与する役割が期待されている。一方、補綴処置を必要とする患者の口腔や全身状態と社会背景はますます多様で複雑化しており、補綴歯科介入前の慎重な臨床判断が、今以上に求められている。つまり、オーソドックスな「造る補綴歯科」から、検査に基づき患者個々の状態や機能を精査して、補綴歯科介入をしない選択肢をも排除しない「オーダーメイド型補綴歯科」に基づく意思決定（Decision making）への転換である。

このような意思決定のプロセスは、動的組織である舌の機能の状態を検査して、舌機能の低下と診断された場合、静的補綴装置である舌接触補助床（Palatal Augmentation Prosthesis, 以下 PAP）で舌の機能を代償し、リハビリテーションを経て咀嚼と嚥下機能の回復に繋げる診療フローが体系化されている。「造る補綴学」の時代は、このような意思決定の思考とプロセスはあまり意識されていなかったと思量するが、今後は多くの補綴歯科介入の場面で必要となるのではないだろうか？

保険導入された口腔機能精密検査と補綴歯科治療とは必然的に関連があるものの、それらの検査結果に基づく補綴歯科介入の意思決定のエビデンスは、未だ十分とは言えない。今後の臨床研究に期待するところであるが、臨床疫学の観点から、その解明にはどのようなアプローチが最適解なのかなどを考えてみたい。また、演者が取り組んで来た義歯安定剤の使用に関する介入前の検査と意思決定のフローについて共有し、ご参加の皆様の忌憚のないご意見を伺いたいと考えている。

略歴

学歴

2003年12月 - 2005年12月ニューキャッスル大学 大学院 医学系研究科（臨床疫学）

1978年4月 - 1984年3月日本大学 松戸歯学部 歯学科

職歴

2023年4月 - 現在 日本大学 FD 推進センター センター長

2023年4月 - 現在 日本大学松戸歯学部 学部長

2010年1月 - 現在 日本大学 松戸歯学部 教授

2020年4月 - 2023年3月 日本大学 松戸歯学部附属病院 病院長

2023年4月 - 現在 東京医科歯科大学 非常勤講師

2007年4月 - 2021年6月 マギル大学 歯学部 兼任教授

委員歴

2021年7月 - 現在 一般社団法人 日本歯科医学会連合, 歯科専門医制度委員会

2020年6月 - 現在 一般社団法人 日本老年歯科医学会, 理事・広報委員会委員長

2013年7月 - 現在 日本歯科医学教育学会, 評議員

2010年6月 - 現在 日本老年歯科医学会, 代議員

2010年1月 - 現在 日本義歯ケア学会, 理事

2008年4月 - 現在 (公社) 日本補綴歯科学会, 代議員

2020年4月 - 2022年3月 日本義歯ケア学会, 理事長

2021年6月 - 2023年6月 (公社) 日本補綴歯科学会, 理事・修練医・認定医・専門医制度委員会委員長

資格等

日本補綴歯科学会 専門医/指導医

日本老年歯科医学会 専門医/指導医